

衛星開発における品質信頼性向上活動

稲川美之*

Reliability & Quality Improvement Activity for the Satellite Development

Yoshiyuki Inagawa

要旨

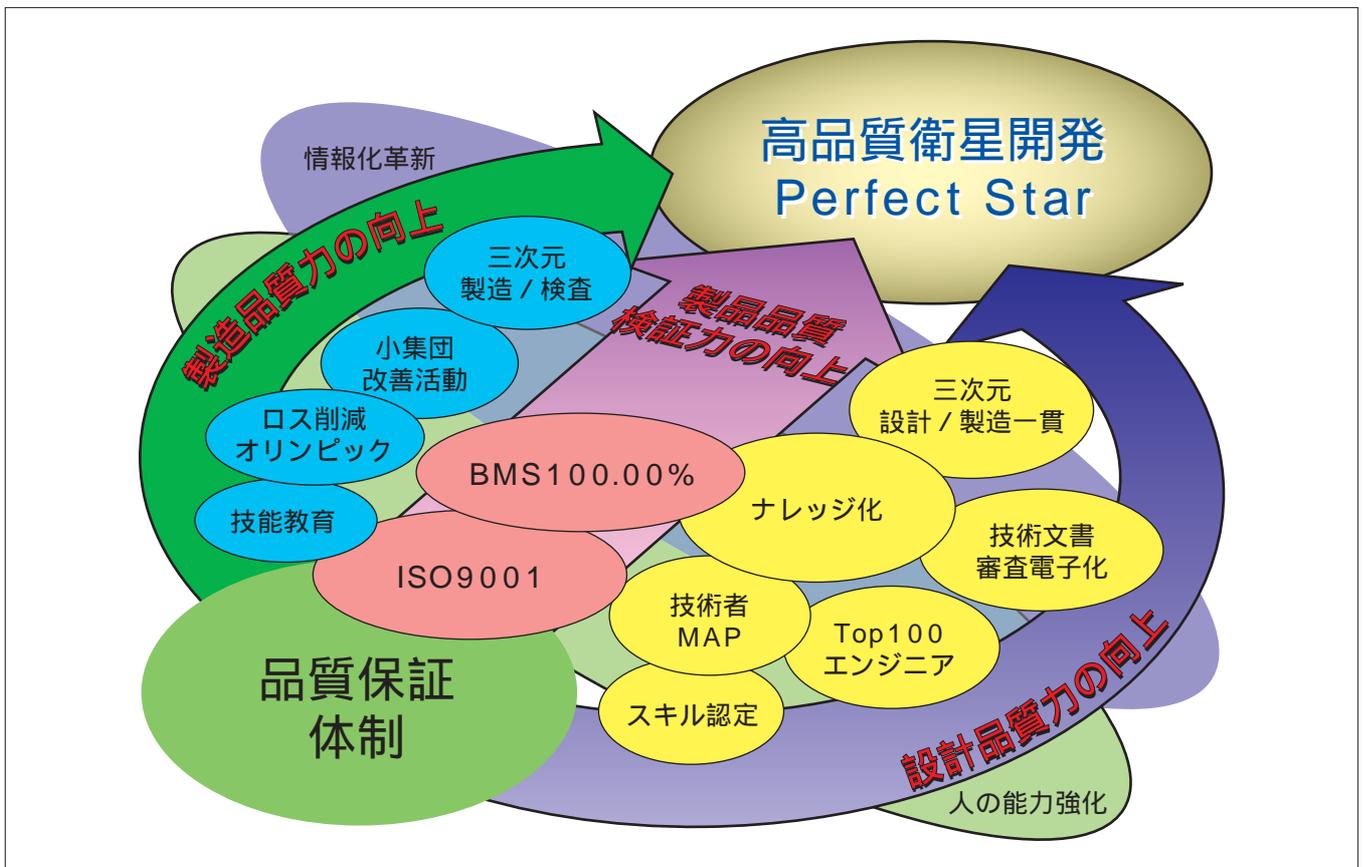
三菱電機は、2002年9月からの14か月間で、衛星9機を引き渡し、7機の打ち上げ及び軌道配置に成功するという大きな業績を上げた。

この連続打ち上げ成功の裏には、すべての人工衛星を100.00%成功させるため、従来の品質信頼性活動に加えて、特別組織であるPS2002推進センターを1997年7月に発足し、当社の宇宙開発・製作の核である鎌倉製作所の全従業員が一丸となって製品の高い品質と信頼性を確保するための着実に現実的な活動がある。

当社は、高品質という企業イメージを確立するために、この活動を衛星の開発・製造のみならず、衛星運用を含む総合的なシステムの品質向上にも広げている。それゆえ

2003年7月からは、PS2002推進センターを発展させ、BMS (Brand of Mission Success) 推進センターとして再設立した。

第三者が、いわゆる“独立した確認と検証”といった活動に従事し、各種審査及び不具合予防活動を展開する。BMS推進センターは宇宙関連部門が行うすべての活動を監視し、品質に関する問題が生じると警告、追跡調査に取りかかる。こうした活動は週一回鎌倉製作所長に報告された上で実行される。ここでは、同センターの活動を始めた当社の品質確保活動について述べるとともに、設計品質力、製造品質力向上の要(かなめ)となる充実した宇宙事業インフラによる活動についても述べる。



衛星の品質信頼性向上施策

図は、従来の品質保証体制の上にBMS100.00活動により第三者検証機能を強化し製品品質検証力を向上するとともに、品質を作り込む設計品質力及び製造品質力の向上施策を展開して、高品質衛星開発を達成するための品質信頼性向上施策を示す。

* 鎌倉製作所